

第 1 回 樹木の腐朽等への対応に関する検討委員会 議事概要

■検討委員会概要

日時：令和 3 年 8 月 5 日(木) 13:30~15:30

場所：東京国道事務所 会議室

【委員】(敬称略)

久保田 尚(埼玉大学教授) ※Web 参加

濱野 周泰(東京農業大学客員教授)

山田 利博(東京大学教授)

石井 匡((一般社団法人)街路樹診断協会 技術委員長)

卯之原 昇((一般社団法人)日本造園建設業協会 業務執行理事)

大石 智弘(国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター
緑化生態研究室長)

福本 充(国土交通省関東地方整備局 東京国道事務所 所長)

■議事概要

- 樹木の診断は、腐朽空洞率だけでなく丁寧な外観診断が大事、日常的变化をくみ取れる仕組みがあったら良い。
- 防御帯は一部では過大評価されているが、機械的な防御はほとんど期待出来ない。
- キノコの有無だけで倒れる危険性は判断出来ず、腐朽程度を測定しないと危険性の判断は難しい。
- 腐朽空洞率に加え樹木の外観の健康状態、成長の状況を見ると良い。
- 狭小の植栽桝、周辺が構造物で狭隘になってしまっているところでは、少し痛んでいるだけでもその支持している根の大半の支持力がなくなって、風のような外力が加われば倒伏の危険性がある。
- 樹木は生き物なので、年数が経てばいつかは弱ってくるし、年齢・樹齢を重ねれば痛んでくる可能性も高いことを踏まえて管理や更新を考える必要がある。

(2)今後の予定について

- ・今回の意見を踏まえつつ資料 3 で提示された課題・問題点および整理の方向性に従って資料を整理し、10月に第2回検討委員会を開催する。

以上